

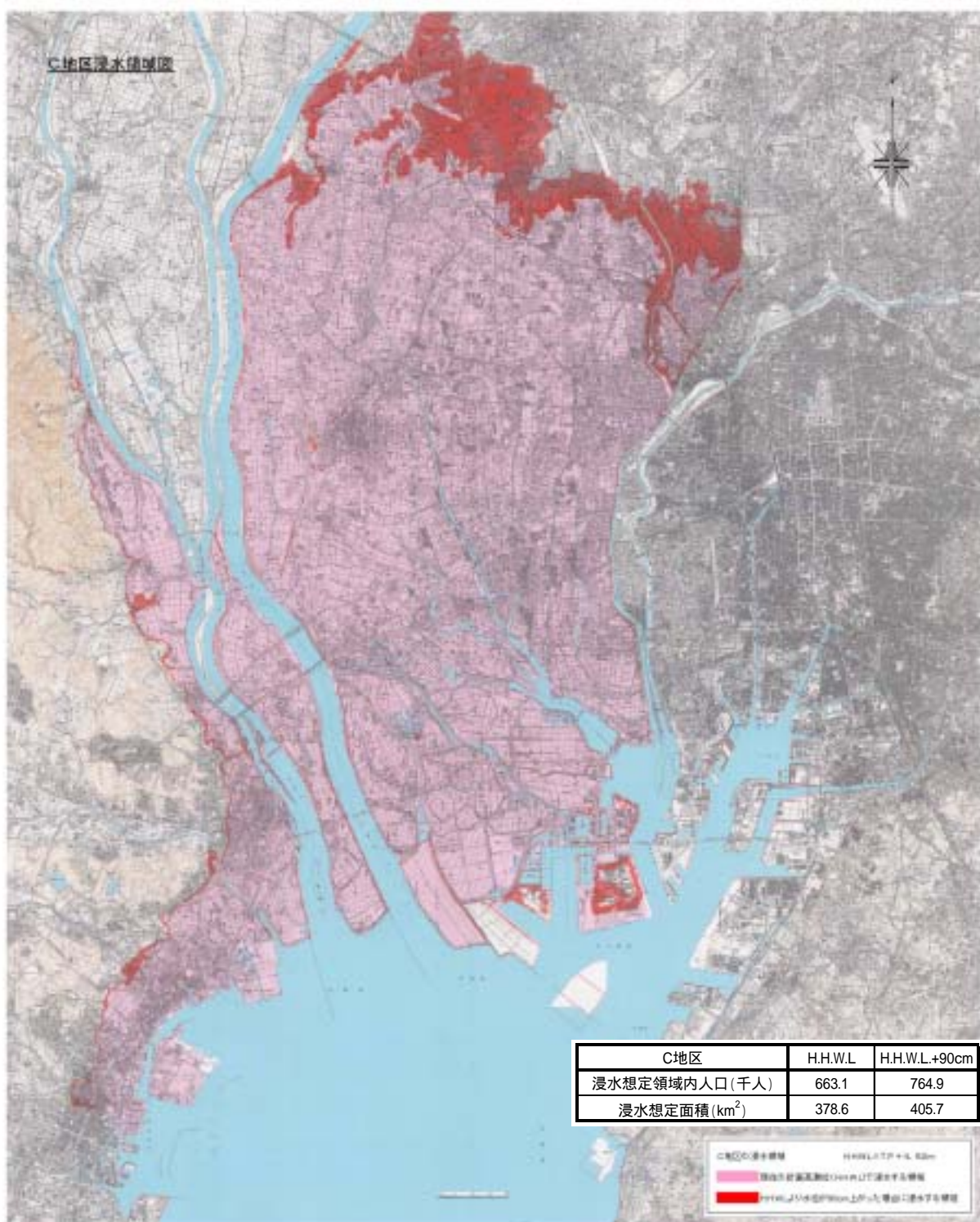
(3) C地区

C地区影響評価結果



道路については、海岸・河川堤防が影響を受ける区間について破堤したと仮定し、海面上昇後の水位まで湛水するという前提で冠水する区間を影響有りとした。

C地区浸水領域図



未整備区域が残されているため、現況潮位（H.H.W.L.）での評価は現況施設で評価したが、水位上昇後（H.H.W.L+90 cm）については、現行計画施設の整備が完了しているものとして評価。

現在の計画高潮位（H.H.W.L）で浸水する場合と H.H.W.L より水位が 90cm 上がった場合に浸水する領域を図示。

C地区影響評価結果

海面上昇による影響評価結果（施設延長及び施設数）

検討対象施設		単位	検討海面上昇値				検討対象	備考	
			+0.1	+0.3	+0.5	+0.9			
浸水想定領域内人口		千人	663.1	670.9	761.4	764.9	-		
浸水想定領域内世帯数		千世帯	204.7	207.1	236.2	237.3	-		
浸水想定被害額		兆円	15.4	15.6	16.7	16.9	-		
海岸	堤防・護岸	k m	0.0	0.9	0.9	4.8	4.8		
河川	堤防	木曾川	k m	5.8	6.6	7.4	8.8	-	
		長良川	k m	6.2	7.4	8.2	13.6	-	
		揖斐川	k m	6.2	7.4	8.4	10.4	-	
	水門等		個所	0	1	1	1	1	
	排水機場		個所	0	0	2	10	11	
	橋 梁		個所	0	1	4	4	9	現状で余裕高不足：3 鉄道橋は除く
港湾	岸壁・物揚場	k m	0.04	0.2	0.2	0.2	0.8		
	護 岸	k m	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6		
	防波堤	k m	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3		
下水道	下水処理場	個所	0	0	0	0	1		
	ポンプ場	個所	0	1	1	4	11		
道 路		k m	21.8	21.9	22.3	22.6	31.7		

各数値は累計値

海面上昇による影響評価結果（割合）

検討対象施設		単位	検討海面上昇値				検討対象	備考
			+0.1	+0.3	+0.5	+0.9		
海岸	堤防・護岸	%	0%	20%	20%	100%	100%	
河川	水門等	%	0%	100%	100%	100%	100%	
	排水機場	%	0%	0%	18%	91%	100%	
	橋 梁	%	0%	11%	44%	44%	100%	現状で余裕高不足：3 鉄道橋は除く
港湾	岸壁・物揚場	%	5%	25%	25%	25%	100%	
	護 岸	%	0%	0%	0%	0%	100%	
	防波堤	%	100%	100%	100%	100%	100%	
下水道	下水処理場	%	0%	0%	0%	0%	100%	
	ポンプ場	%	0%	9%	9%	36%	100%	
道 路		%	69%	69%	70%	71%	100%	

各数値は累計値

被害の特徴

- ・低平地が広がっているため、被害額は大きい。
- ・海岸施設は+0.3mで影響が生じ、+0.9mで全ての海岸施設に影響が生じる。
- ・河川施設では+0.1mから長い区間にわたって影響が生じている。
- ・港湾施設は+0.1mから影響が生じ、+0.5mからはあまり変化しない。
- ・下水道施設は+0.3mおよび+0.9mで影響が増大するが、その割合は小さい。
- ・道路施設は+0.1mで被害ポテンシャルが大きいですが、その後あまり変化しない。

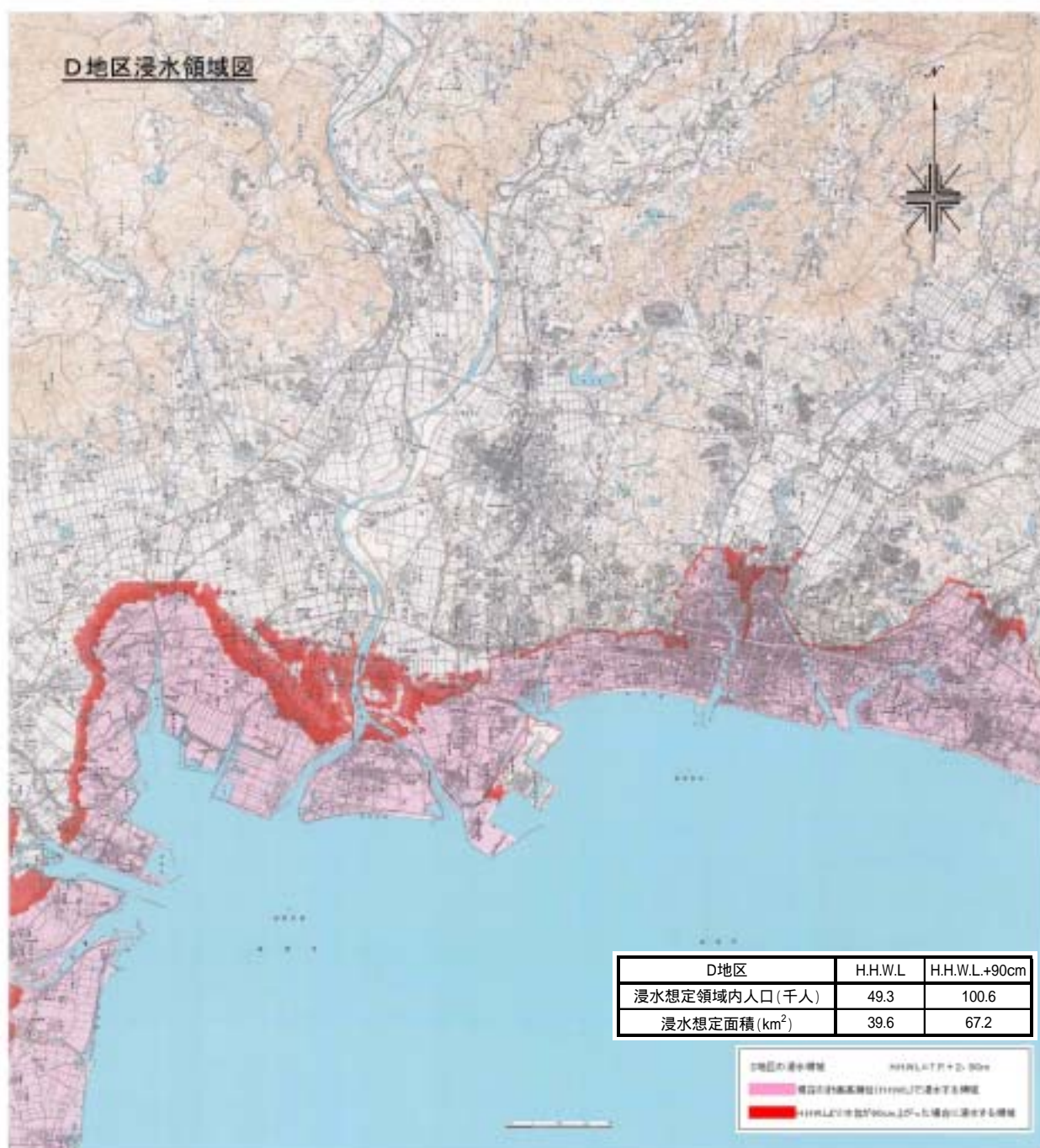
(4) D地区

D地区影響評価結果



道路については、海岸・河川堤防が影響を受ける区間について破堤したと仮定し、海面上昇後の水位まで湛水するという前提で冠水する区間を影響有りとした。

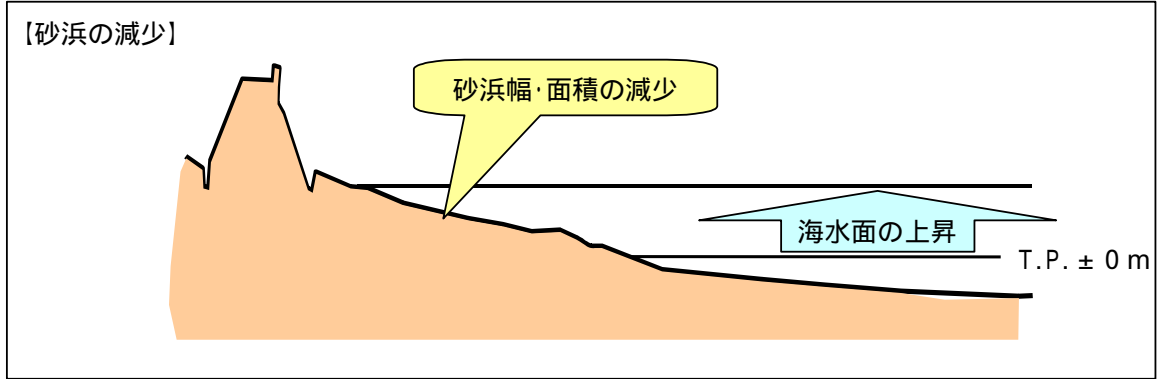
D地区浸水領域図



未整備区域が残されているため、現況潮位（H.H.W.L.）での評価は現況施設で評価したが、水位上昇後（H.H.W.L+90 cm）については、現行計画施設の整備が完了しているものとして評価。

現在の計画高潮位（H.H.W.L）で浸水する場合と H.H.W.L より水位が 90cm 上がった場合に浸水する領域を図示。

海面上昇に伴う砂浜への影響（D地区）



地区	都道府 県名	海岸名	地区名	海岸線延 長(m)	汀線位置変化量(m)				砂浜面積変化量(×10 ⁴ m ²)			
					+0.1m	+0.3m	+0.5m	+0.9m	+0.1m	+0.3m	+0.5m	+0.9m
D	三重県	河芸	上野	1,773	-1.1	-3.4	-5.4	-9.2	-0.2	-0.6	-1.0	-1.6
			津	823	-1.1	-3.4	-5.4	-9.2	-0.1	-0.3	-0.4	-0.8
		津 松阪港	栗真	1,165	-1.1	-3.4	-5.4	-9.2	-0.1	-0.4	-0.6	-1.1
			河芸地区	1,845	-2.5	-7.5	-12.5	-22.5	-0.5	-1.4	-2.3	-4.2
			松本崎地区	263	-0.8	-2.5	-4.1	-7.5	0.0	-0.1	-0.1	-0.2
			中河原乙部地区	2,695	-0.8	-2.5	-4.1	-7.5	-0.2	-0.7	-1.1	-2.0
		松阪	阿漕藤枝米津地区	4,385	-2.5	-7.5	-12.5	-20.2	-1.1	-3.3	-5.5	-8.9
			香良州	2,350	-0.8	-2.5	-4.1	-7.5	-0.2	-0.6	-1.0	-1.8
			鵜	1,645	-0.8	-2.5	-4.1	-7.5	-0.1	-0.4	-0.7	-1.2
			天白	1,680	-0.8	-2.5	-4.1	-7.5	-0.1	-0.4	-0.7	-1.3
地区合計				18,624					-2.7	-8.1	-13.4	-23.0

汀線位置変化量は、測量断面から算出した、現在のT.P. ± 0 mから各検討海面上昇値地点までの距離。負値は陸側へ移動。
 砂浜減少面積 = 海岸線延長 × 汀線位置変化量で算出。

D地区影響評価結果

海面上昇による影響評価結果（施設延長及び施設数）

検討対象施設	単位	検討海面上昇値				検討対象	備考	
		+0.1	+0.3	+0.5	+0.9			
浸水想定領域内人口	千人	56.2	97.6	97.7	100.6	-		
浸水想定領域内世帯数	千世帯	19.6	37.1	37.1	38.2	-		
浸水想定被害額	兆円	1.5	2.6	2.6	2.9	-		
海岸	堤防・護岸	km	0.0	4.6	4.6	4.6	18.6	
河川	堤防	km	1.4	1.6	1.8	2.0	-	
	雲出川	km	1.4	1.6	1.8	2.0	-	
	水門等	個所	0	0	0	0	0	
	排水機場	個所	0	0	0	0	0	
港湾	橋梁	個所	0	0	0	0	0	
	岸壁・物揚場	km	0.1	0.3	0.4	1.1	1.4	
	護岸	km	0.0	0.0	0.2	0.2	9.2	
下水道	防波堤	km	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	
	下水処理場	個所	0	0	1	1	1	
	ポンプ場	個所	0	0	1	4	4	
道路		km	8.3	8.6	9.3	11.0	12.9	

各数値は累計値

海面上昇による影響評価結果（割合）

検討対象施設	単位	検討海面上昇値				検討対象	備考	
		+0.1	+0.3	+0.5	+0.9			
海岸	堤防・護岸	%	0%	25%	25%	25%	100%	
河川	水門等	%	0%	0%	0%	0%	なし	
	排水機場	%	0%	0%	0%	0%	なし	
	橋梁	%	0%	0%	0%	0%	なし	
港湾	岸壁・物揚場	%	7%	21%	29%	79%	100%	
	護岸	%	0%	0%	2%	2%	100%	
	防波堤	%	100%	100%	100%	100%	100%	
下水道	下水処理場	%	0%	0%	100%	100%	100%	
	ポンプ場	%	0%	0%	25%	100%	100%	
道路		%	64%	66%	72%	85%	100%	

各数値は累計値

被害の特徴

- ・特に+0.3mで津市の市街地が影響を受けるため、被害額が増大する。
- ・海岸施設は+0.3mで影響が生じるが、その後増大しない。
- ・河川施設は+0.1mから影響が生じるが、影響区間は短く、河口付近のみ。
- ・港湾施設は水位の上昇に伴い影響が増大する。
- ・下水道施設は全て海域に放流しているため、+0.9mで全ての下水道施設に影響が生じる。
- ・道路施設は+0.1mで被害ポテンシャルが大きく、その後水位の上昇に伴って増大する。